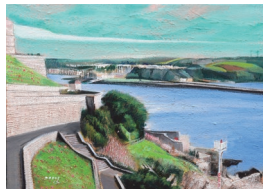


12月3日(水)～8日(月)

やま もと まさ ひで

山本 正英 展 -変容する英国、変わらぬブリティッシュ島の今を描く-

山本先生が描く「英国風景」は、英国特有の淡く湿り気を帯びた柔らかな陽光と、長い歴史を刻んだ建築と現代建築とが共存する文化的景観とを、独自の色彩と重厚なマチエールにより画面へ重ね合わせることで昇華させています。画家の眼差しによって紡がれた英国の豊かな風景を、この機会にぜひともご高覧ください。



「プリマス港」(24.2×33.3cm)

よし かわ

-空を仰ぐ人- 吉川 かおり 展

動物たちの話す声が聞こえてくるような、粘土とパートド・ヴェール製の優しい吉川かおり先生の世界をお楽しみください。演出の小道具から洋服のシワまで、細やかな制作も必見です。

「少し先の空」
(15.0×11.5×高さ24.8cm／石粉粘土・透明水彩・ガラス)

12月10日(水)～15日(月)

りゅう

颯 RYU

日本画の伝統技法を継承しつつ、現代の感覚で新たな表現に挑み続ける先生方。ひたむきな探求心とたゆまぬ研鑽を重ね、日本画の世界を切り拓く作品の数々をご覧ください。

【賛助出品】林 孝二

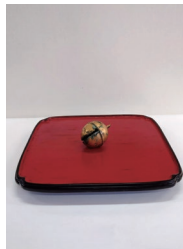
【出品作家】	石橋 志郎	梶浦 隼矢	北川 安希子	後藤 吉晃
	佐竹 龍蔵	竹村 花菜	田村 葵	直海 かおり
	野一色 優美	橋爪 ちなつ	福田 季生	ペリー マキコ
	前田 和子			(敬称略・50音順)

梶浦隼矢「雨の日」
(33.3×24.2cm)

なつ め よう すけ

夏目 陽介 漆芸展

先生の創る根来には、本来の根来の持つ力強さ、荒々しさと同時に、控えて優しい温かさが共存しています。先生の渾身の新作、約50点を一堂に展覧いたします。今回は伝統的な雑器にくわえ、現代的な作品も展覧いたします。



「根来安居屋盆」(31×31×高さ3.5cm)

12月17日(水)～22日(月)

ふく ふく きつ しょう

福福吉祥 展

現代日本画・洋画・現代アートの人気作家に吉祥のモチーフを選んで描いていただきました。福を招く作品の数々をぜひともご高覧ください。

〈出品予定作家〉

秋葉 麻由子	泉 東臣	乾 菜里子	鶴岡 義丈	大浦 雅臣	金丸 悠児	河井 眞里枝	川上 椰乃子
小宮 絵莉	坂本 藍子	佐竹 佳奈	須藤 和之	竹原 美也子	永岡 郁美	塗師 瑛	橋爪 純
長谷川 喜久	福本 百恵	武藤 雅子	安岡 亜蘭	山本 雄教	吉原 拓弥		(敬称略・50音順)

〈モチーフ〉

〈植物〉松 竹 梅	〈生き物〉梟 鶴 亀 鯉 鯛	〈置物〉招き猫 だるま 熊手
〈風景〉富士山 朝日		

12月24日(水)～1月5日(月)

しん しゅん ことは しゅ き

現代工芸家による 新春を寿ぐ酒器展

近畿圏を中心に活躍し、21世紀のアートシーンを牽引する作家21名による、酒器をメインとするグループ展を開催いたします。今展では陶磁器とガラス素材の杯、ぐい呑、徳利、片口などの酒器に加えてお正月の床飾りや、お初釜の茶器としてお使いいただける各作家の作品も同時に展覧いたします。

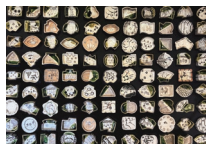
【陶磁器】	井倉 幸太郎	井尻 杏那	井上 真利	大上 裕樹	鍵谷 雅美	北浦 真保
	小孫 哲太郎	鹿谷 敏文	瀧 知子	中村 宏太郎	檜木 淑子	西 崇
	前田 あかね	松田 昂	三島 寛也	山田 浩之	渡辺 大輔	
【ガラス】	加藤 千佳	佐々木 伸佳	白藤 晴久	田仲 哲也	以上21名	

(素材別・敬称略・50音順)

みの あん どう まさ ひこ

美濃 安洞 雅彦 織部展

安洞雅彦先生は1973年名古屋にて祖父の代から続く古美術商に生まれ、当初の音楽活動の生活から一転2002年より陶芸の道へ進まれました。初個展となる今回は代表作である数百種に及ぶ織部や志野の豆向付をはじめ、御深井焼の向付、黒織部、鳴海織部、織部黒、絵志野などの茶器や酒器、美濃唐津の作品など、まさに「へうげもの」として名を馳せた古田織部好みのうつわの数々を一堂に展覧いたします。

「織部豆向付各種」
(およそ10×10×高さ3cm前後)

TAKASHIMAYA

2025 11・12月

Art Information

高島屋大阪店6階ギャラリーNEXTのご案内

NEXT

12 10 22

WED MON

※12月16日(火)は開催いたします。

おお たに よう いち ろう

大谷 陽一郎 展 /ki/



木、気、祈、希、喜、季、記…。「キ」と発音される無数の漢字をキャンパスの画面に配し、色彩の濃淡によって山々の姿が立ち上がる作品は、ひとつの音が呼び込む多義性が形と共鳴し、山がもつ文脈へと接続していきます。文字は単なる記号を越え、自然のささめきや気韻、祈りといった多層の意味を帯び、重なり合いながら像を結びます。文字が響きあうことで生まれる、新たなかたちの可能性を探る作品をご覧ください。

「ki #43」(53×41cm※部分)

12 24 1 5

WED MON

※12月30日(火)は開催いたします。

おお かわら あい

大河原 愛 鼓膜に残る静寂を優しさに変えるすべについてⅡ



13年ぶり的大河原愛先生の個展となります。豊かと言われる現代社会が置き去りにしている人々…そこに寄りそうまなざしを油彩、ミクストメディア、コラージュ作品、約25点の新作から感じていただけましたら幸いです。

「光降る森17」(30.2×30.2cm)